

テーマ：アイヌの人たちの歴史・文化等（実践校）

日高管内 平取町立貫気別小学校

本実践のポイント（概要）

- ・ふるさとに対する愛着や誇りを育むため、総合的な学習の時間において、平取町アイヌ文化財団の派遣事業を活用し、工芸製品作成や博物館見学などの体験活動を通して、地域に残るアイヌの人たちの歴史や文化と、自分たちの生活との関わりについて探究的に学習しました。

ふるさと教育・観光教育の実践内容

単元の目標

アイヌ文化の特徴について調べたり、体験したことをまとめたりする活動を通して、アイヌの人たちの歴史や文化について理解するとともに、ふるさとに対する愛着や誇りを育み、歴史や文化に関心をもって発言したり行動したりできるようにする。

取組の様子

(1) 課題の設定

「北海道ふるさと教育指導プログラム」を活用するとともに、身の回りの自然を生かした工芸製品作成や、博物館見学などの体験活動から、アイヌの人たちの歴史や文化、生活様式等について、探究課題を設定しました。

(2) 情報の収集

平取町教育委員会のアイヌ文化学習係やアイヌ民族文化財団「アドバイザー派遣事業」を活用し、講師からアイヌの人たちの伝統的な生活の様子について講義を受けたり、工芸品を見たり触れたりすることを通して、アイヌの人たちの生活や文化について情報を収集しました。

(3) 整理・分析

工芸製品作成や自然のものを使った遊び体験の中から得た知識を整理するとともに、見学や体験で感じたことを児童同士で交流・協議することで、アイヌの人たちが使っていた言葉や、伝統的な踊りなどの文化や生活様式について理解を深めました。

(4) まとめ・表現

一人一人が見学や体験活動から学んだことを発表し合う学習活動を通して、アイヌ語の特色やアイヌ文化について理解を深めるとともに、アイヌ文化と自分たちの生活との関わりについて考えることができました。

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る指導の工夫

- ・児童の興味・関心を高めることができるよう、課題設定の場面で、平取町に残る、アイヌ文化に係る施設等を活用し、児童自らが問いをもち、課題設定を行う場面を位置付けました。
- ・課題を解決するために多様な意見に触れながら考えることができるよう、小規模校の特性を生かした、異学年集団による活動を取り入れ、意見交流を行う場面を位置付けました。



【博物館見学の様子】



【校内展示スペース】



【工業製品作成体験】

実践の振り返り

- ・地元にも密接な関わりのあるアイヌ文化を教材にすることで、児童は地域のアイヌ文化に対する興味・関心を高めるとともに、ふるさとに対する愛着や誇りを育むことができました。
- ・1人1台端末を活用して調べ学習を行い、調べたことと体験活動を結び付けて発表することにより、児童の身近なアイヌ文化に対する理解をより一層深めることが期待できます。